

200メートルについては平成20年3月末には高級舗装として整備が完了する予定ですが、北条町栗田側からのアクセス道路の区間約660メートルは現在整備の計画はなく、残った区間を一度に整備するのは経費のこともあり、整備区間を区切り舗装整備ができればと考えています。財政事情が大変厳しい中ですが、斎場へのアクセスということも考え、高級舗装への実施に向けて努力したいと考えています。



幼・保一元化の方向性について

後藤十明 議員

Q 加古川市が全市で幼保の一元化をする方針を出した。

加西市においては、平成14年度に方針が出されたにもかかわらず、

局所的な実施にとどまっている。どうして進まなかったのか。加古川方式では幼稚園に行っても保育園に行っても、同じ保育、教育が受けられるソフト面からの統合を始めている。このような形を始めれば、自ずと施設はまとまってくるのではないかと。幼保一元化の全体構想図と年次計画をなぜ立てることができないのか。統廃合までの経過的措施がなぜ打ち出せないのか。

A 幼保一元化の方向性について、なぜこの状況になったのかについては、財政難、地元で合意形成が難しかったこと、

田原保育所の民営化はどうかといったことも原因で、決定的なのは今の保育施設はかなり老朽化し、施設の建て替えが必要である状況があります。加古川のようにソフトでということについては、加西市ではハードも含めて考えてきたので、今後もハードを含んで考えていきたい。その場合、九会は既定路線と思っています。九会は、来年は何かというふうには恐らくいかならないと思いますので、ミニ幼稚園といったつなぎ方ではやっていけないので

はないかと考えています。全体計画については情報をきっちり出しながらやっていくのは、これからの正論だと思いますので、そういう方向で考えていきます。



義務教育の質の向上について

井上智章 議員

Q 公教育の質の向上というキーワードをどのように定義、理解し、どのように取り組むのか。全国の市町村では、例えば土曜学習をはじめた事例もあり、基礎学力の向上と心の教育は二律背反する関係ではないと考える。全体として底上げを図り、

加西市の子どもたちに十分な学習機会を与えることが将来の大きな可能性、チャンスをつくる基礎になるのではないかと。加西市の学校教育における学校と地域社会のかかわりについて、学校評議員制度から発展し

て学校運営協議会を市内においてモデル校指定を行い、試行的に検討してはどうか。

A 基礎学力の向上策について、各学校の教育課程は編成の基本は学習指導要領に基づきますが、各学校の工夫で中身をどういうふうに変更させていくかが一番ポイントで、市教委としては工夫された内容について支援をしていくという姿勢で取り組んでいます。生きる力を育てるという基本理念は、新しい学習指導要領においても変わりません。ゆとりか詰め込みかではなく、基本的な知識技能の確実な定着を図るため、基礎学力の充実とゆとりを車の両輪としてとらえていくという考えです。

学校と親、地域とのかかわりをもっと充実させていくべきではないかということ、加西市におきましては、学校評議員制度、学校評価の充実に取り組んでいます。学校の今の現実がどうか、どういう部分が足りないのか、どういう部分に協力を願

いたいかということを考えていく取り組みが、学校運営協議会へと発展していく可能性のある取り組みではないかと考えて

います。



フェニックス共済について

別府 直 議員

Q 加西市を横断している山崎断層について断層が動いた

場合の被害はどのようになるのか。兵庫県が取り組むフェニックス共済は阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、自然災害により被害を受けた住宅の再建、補修等を支援する相互扶助の制度だが、加西市民、近隣市町、県の加入率はどのようになっているのか。また、断層位置を市民へ公表してはどうか。

また、全国瞬時警報システムについて検討されたことがあるのか。

A 山崎断層地震は断層北西部の約50キロが動き、マグニチュード7.7の地震が冬場の午前3時から4時の間に発生した場